

「産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業【テーマB】インターンシップ等の取組拡大」  
 「大学教育再生加速プログラム（インターンシップ等を通じた教育強化）」

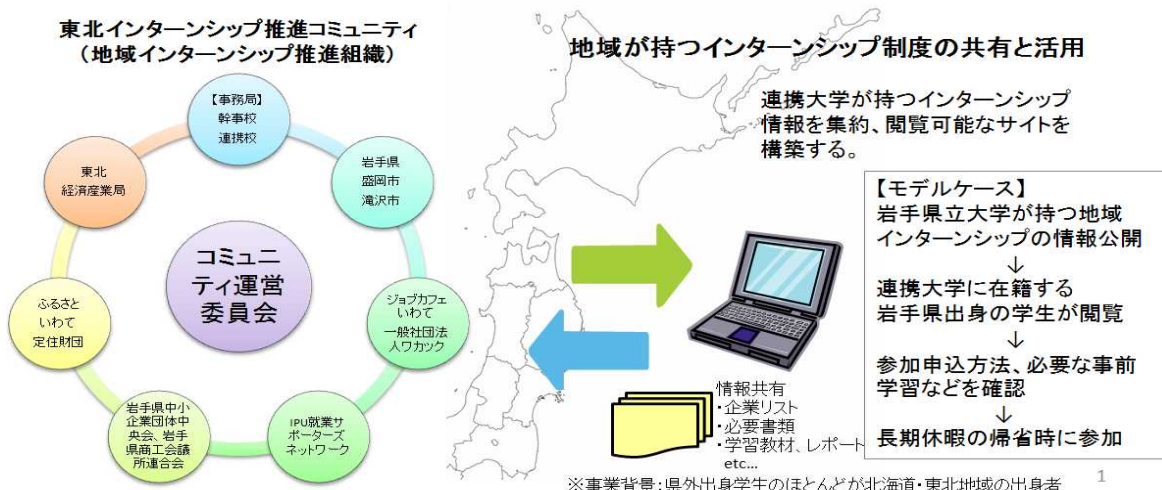
最終評価結果

大学グループ名	岩手県立大学グループ
取組名称	東北の結いでつなぐふるさとインターンシップ等の拡充
地域インターンシップ推進組織名	東北インターンシップ推進コミュニティ
取組担当者	高橋郁磨
連携校名（★幹事校）	★岩手県立大学、山形大学、会津大学、盛岡大学 岩手県立大学盛岡短期大学部、桜の聖母短期大学（計6校）
連携したインターンシップ等支援組織等名（団体名・企業名等）	岩手県 盛岡市 滝沢市 岩手県中小企業団体中央会 岩手県商工会議所連合会 ふるさといわて定住財団 ジョブカフェいわて 一般社団法人ワカック 株式会社岩手日報社 イオンスーパーセンター株式会社 株式会社岩手ホテルアンドリゾート

事業概要

【事業目的→事業】

1. インターンシップ参加学生の増加→北海道・東北ブロック内で、連携大学の学生と地元出身の学生を対象にインターンシップ制度の相互乗り入れを促進する仕組みの構築
2. インターンシップ参加企業の増加→ブロック内共通で使用できる啓発ツールの開発と開拓支援
3. インターンシップの質の向上→事前～事後までのプログラム・教材や好事例の収集とモデルケースの検討
4. 専門人材の育成→ステークホルダーを集めた理解促進研修会と教職員向けインターンシップ活用研修会の実施



最終評価結果<総合評価> S

《コメント》

東北地域という広い地域を対象とし、また、厳しい経済状況の中で、連携大学の増加に努め、東北の中心である宮城県も巻き込んだ点が評価できる。特に、実用的なシステムである「インターンシップ in 東北」の開発、運用により岩手県以外とも連携し、東北地域内で学生が大学や県の枠を越えて、出身地でインターンシップに参加できる仕組みを構築したことは本事業の大きな成果であり、広域連携の模範的な取組である。結果として、受入企業数や、参加学生数は、目標を上回る成果を上げた。また、「企業と大学をつなぐインターンシップガイド」、「インターンシップ運営基本の手引き」を制作したことや、教員向けインターンシップの実施等による大学内の教員の理解が深まったことも、今後の事業の円滑化に繋がる本事業の重要な成果であり、補助期間終了後の事業の継続、拡大が期待できる。

一方で、評価において企業からの視点がないため事業の具体的な成果が見えにくい部分がある等、企業側の協力を得るといふ点には課題が残る。また、「インターンシップ in 東北」についても学生が活発に利用し、東北地域全体で有機的に機能するには道半ばであり引き続き労力を惜しまないでほしい。

今後は、産業界や行政機関と持続可能な協力体制を強化し、更に対象範囲を拡大する努力を続け、東北地域全体でのインターンシップの活発な相互乗り入れや情報共有の拡大等、地元根ざした活動が継続されることを期待したい。